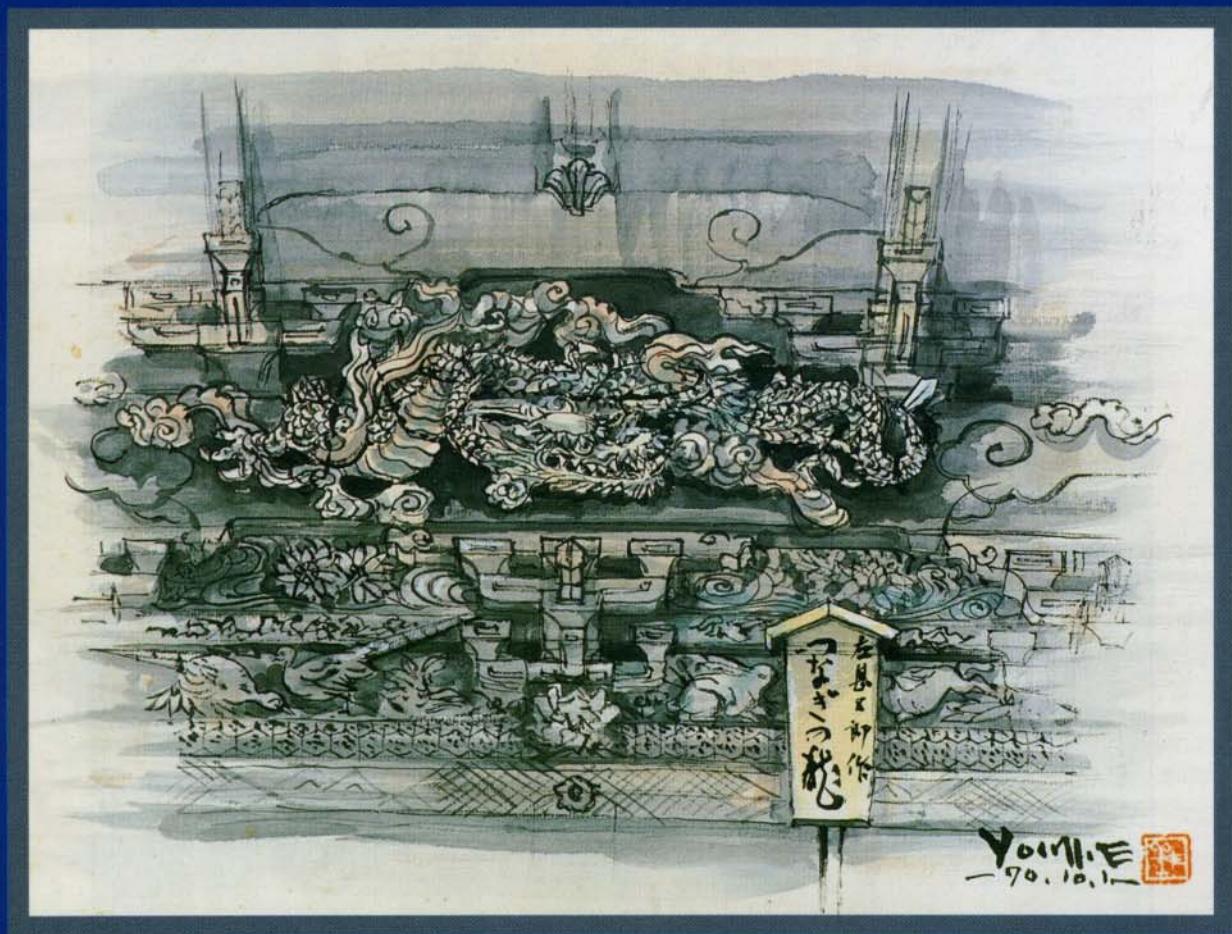


社乃柱

秩父神社社報
柞乃杜(ははそのもり)

第 16 号

平成9年12月3日
(大祭)



北山屋
ゆ兒さん
祀り奉
手本
大宮の郷

山 瓦

やま
瓦

柿 塚 欣 一 郎

ちちのみの秩父の里は 山なみぞ淨くめぐれる

はろばろと連る尾根や 目に迫りそそり立つ峯

寄り合ひてなせる秩父嶺 朝に夕に眺めてあかず
春秋を重ねていよよ 愛しさの深まるものか

夏は實に白雨のあと向つ嶺の緑親しく

山瓦よ そは

冬はなほ朝光にほふ 新雪の遠嶺ろ恋ほし

反 歌

山瓦よ さはの山瓦 ゆたかなる大き起き伏し

集め来る水の流れは涼々とその山峡を

削ぎしごと深き谷溪 おのがじし姿はあれど

鳴りしづみ行く

解説 秩父神社(15)

彩の国 名工會々長

坂本才一郎

災害復旧工事覚書

(4)

社殿の彫刻(一)

災害復旧工事覚書

(4)



黒様

神社では拝殿正面の出た部分を向拝と
いう。向拝柱には、麒麟と唐獅子の彫刻
を付すが、麒麟は角と牙のある珍しい構
図である。聖人世にあらわれた時、姿を
あらわす。瑞祥とするので、今にも疾駆
しそうな迫力ある彫刻はさらにない。一
方、唐獅子は、前足を下方にのばし、頭
をひねって、ななめ下方を凝視している。

神社は江戸時代まで妙見宮とよばれ、
その頃の彫刻であるので、仏教、道教、
修驗道、儒教等の影響がみられるが、各
彫刻は所を得て、いきいきと映えている。
神社では拝殿正面の出た部分を向拝と
いう。向拝柱には、麒麟と唐獅子の彫刻
を付すが、麒麟は角と牙のある珍しい構
図である。聖人世にあらわれた時、姿を
あらわす。瑞祥とするので、今にも疾駆
しそうな迫力ある彫刻はさらにない。一
方、唐獅子は、前足を下方にのばし、頭
をひねって、ななめ下方を凝視している。

神社は江戸時代まで妙見宮とよばれ、
その頃の彫刻であるので、仏教、道教、
修驗道、儒教等の影響がみられるが、各
彫刻は所を得て、いきいきと映えている。

◆秩父神社社殿

災害復旧工事覚書

(4)

これは参詣者を守護する意図を表現した
彫刻で、彫工の至芸によつて豊かに造形
されている。

酒買男の孝行に感じ、仙界から猩々が、
くめども、つきぬ酒の瓶を持ってきて

「こうふう」に与え、共に酔いたわむれ
ている構図で、一人の猩々はずっこけて
いるのが面白い。左側の楽しそうに踊っ
ているのが「こうふう」である。猩々を
描く絵画や彫刻でも、能の猩々を写した
華麗のものが多いが、猩々舞の原点であ
る孝子「こうふう」を添えた彫刻は皆無
である。

その上の彫刻が福の神である。恵比寿
は普遍形であるが、大黒は変わっている。
通常、大黒天は袋を肩にかけた像である
が、この彫刻では袋は足元におき、打ち
出の小槌と宝珠を持つて、大黒舞いさな
がらの構図である。即ち、打ち出の小槌
で欲しい物は何でも出してやる、といっ
た彫刻を、下を通る上段に配したことは、
妙見神の「若し人ありて能く礼拝供養せ
ば長寿福貴なり」の御神徳を表現した
ものである。

拝殿の彫刻は知々夫神社の額のある、
中央の間から解説する。波は大海で中
は島である。島には亀があそび、松は
枝をのばし、二羽の鶴が舞ふ、構図は
蓬萊山(極樂淨土)の彫刻である。

十二月三日、屋台の上で若衆が「ホー
ライ」「ホーライ」とはやすが、屋台
を蓬萊山に曳いて行けということで、
三日には御旅所が蓬萊山となる。蓬萊
山は不老不死の仙人がすむ樓台の如き
島で、松、竹、梅が至る所に繁り、天

空に鶴が舞い、海には亀があそび、
すこと、飢えることのない理想郷であ
る。これが日本に伝えられて目出たい

象徴として、祝儀の飾り物に「島台」
として作られたのである。蓬萊山の彫

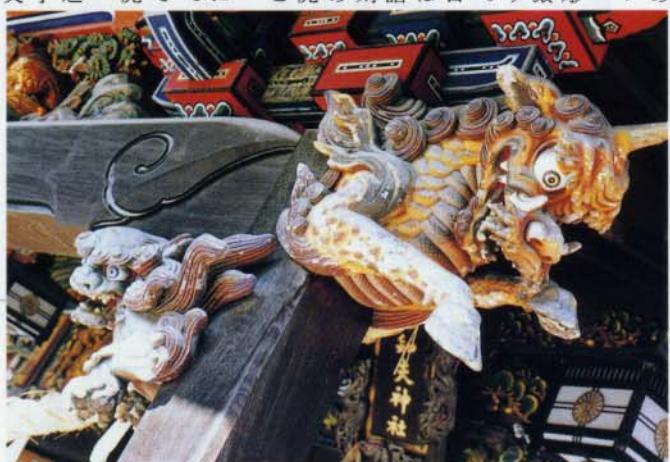
刻は妙見宮の最も重要な彫刻で、社殿
を蓬萊山とし、不老不死に福貴を願う
人の心のよりどころにしたと思われる。
左右は竹に虎の彫刻である。虎は日本
には棲息しなかつたので、日本人は
虎の皮、絵画、加藤清正の虎狩りの話
などを通してしか知らない。彫刻
は形もよく整い、迫力もある傑作であ
る。彫刻のできた当時は、妙見宮の虎

として、秩父郡中の人気をさらったと
思われる。

上方の方に、竹の葉を重ね、放射状に
でているのは、江戸初期の技法である。
左側の虎の子育てと称する彫刻は豹で
あるが、これは狩野派の絵師が「群虎
の中には豹をそえる」という規範によ
て彩色したもので、豹がいるので、之
等の彫刻は古いといえる。また虎の子
育ての構図は、芸術家も注目し、秩父

出身の微細彫刻家として著名な森玄黄齊
は、江戸の門人の協力によって、印籠譜
を出版し、その中に虎の子育ての構図を
写しているが、その絵は見事である。
東側は、松の枝と開花した梅の枝をの
ばし、鳳凰を配して三間一面の山水画を
見るような、さわやかな構図である。中
國においては、神仙と松は強く結びつき、
神仙の住むところには松が生い茂り、松
は千年の長寿を保つといわれ、梅は百花
にさきがけて開花し、香氣をはなち、蓬
萊山には松竹梅が至る所に繁茂していた

「麒麟と唐獅子」



というから、松も梅も仙界と深い関係が
あるので、松と梅を構図の主題とし、鳳
凰は俗に極楽鳥ともいわれるが、この
鳥を配したと思われる。中国では梅の実
の熟したころ、娘たちは思う男に実をな
げつけて愛をつげる。やがて実は、地に
落ちて新しく芽生える。生命を産み育て
ることは女性の役割である。女性のシン
ボルとなる、梅の実を男に投げることは、
自分の魂を投げ与えることで、百発百中
とのことである。

以下、次号で神社と左甚五郎とします。

妙見の七つ井戸

秩父市立図書館々長 千嶋壽

七つ井戸の環境

秩父市街地を南北に貫く秩父鉄道と国道一四〇号が並行する地域に「宮地」町がある。町域は南から北へ上、中、下の三区域に分かれている。「妙見の七つ井戸」はこの三地区にまたがる宮地町内に散在する。

ただし、井戸と言つても、実際には地層の割れ目に出会った地下水が地表に姿を現したもので、断層面に良くある湧水源である。



妙見の七つ井戸分布図
(斎藤安之助著『秩父神社と宮地—屋台・行事・伝承・その他一』より)

して、東方へ向かって数段階の段丘からなっている。市内の湧水源は、各段丘の下、つまり断層面の下に多く見られる。宮地の場合も例外ではない、と言うよりこの町は市街地でもっとも湧水源に恵まれた地域で、中宮地から下宮地にかけて地下水が湧出する場所が多い。下宮地の山麓寄り平坦地は湿地帯だったという言い伝えさえある。したがって「妙見の七つ井戸」は、特に選ばれて命名された七か所の湧水源だということになる。なにゆえに選ばれたのか。

分布図によつて七つ井戸の位置に注目すると、①から⑦まで番号がつけられていることと、一定のコース上にあることがわかる。

井戸の順番は、市街地の流水の方向性とは逆方向につけられている。地勢的には南から北へ流れる。地下水が逆に流れているとも思えないが、あっての順位指定だということがわかる。

また各井戸は、下、中、上三地区を結びつける古い道沿いにほぼ直線的に配置されている。このコースは場所によって多少の高低差はあるものの同じ断層沿いにある。しかし地下水が北から南に流れているとは言えないし、同一水脈からなっているとも推測しがたい。この配置の方向性は、断層沿いの古道をたどれば秩父神社にたどりつくということを示しているかのようである。分布図ではこの道筋と秩父神社との関係が中断されているけれども。

「秩父妙見宮」の成立

延喜式内・秩父神社は、鎌倉時代の中頃（一二三五年）落雷のために炎上した（秩父大宮妙見宮縁起）と伝え、翌年には再建されたが、新築の社には妙見大菩薩が合祀され、ここに妙見宮秩父神社が成立したとしている。

縁起が伝えるところを歴史的に見ると、落雷炎上の時期に疑問を感じ

じる。秩父神社が所蔵する中世文書（埼玉県指定文化財）が伝える再建工事の開始期（一三〇〇年頃）と工事が長引いて宮本地頭らが苦心・惨憺している様子（一三一〇年頃）等を勘案すると、落雷炎上期は遅りすぎているくらいがある。そうせざるを得なかつた縁起作者の意図については別に記したことがある（拙著『秩父大祭』）のでここでは略す。

同社中世文書は竣工の時期を伝えていないが、その年代を推測されるに足る有力な資料がある。それは東秩父出身の丹党大河原氏が西遷移住した播磨国において、備前長船景光にうたせた「秩父大菩薩」銘の短刀（埼玉県立博物館所蔵）である。制作年代は一三三二年（元亨二）。銘の「大菩薩」は当然妙見大菩薩を意味していると思われるから、これが「秩父妙見」宮成立に関する初出資料となる。

当時の妙見信仰は北斗七星の第七星を「破軍星」とも「破軍の劍先」ともする武神信仰（秩父神社が保存している近世の木版護符神像は、鎧を身につけ直刀を杖にしている）だったことを考慮すると、武士団大河原氏は、出身地の惣鎮守社が再建され、同時に武神妙見大菩薩が合祀されたことを記念して、文字通り「破軍の劍」を新宮社のご神体、あるいは神靈の守護刀とともに期待して故郷に贈ってきたことが想像される。

宮地妙見の遷座

一三二〇年頃秩父神社に合祀された妙見大菩薩が祀られていた所、遷座以前の土地が宮地であるという伝承は根強く残っている。宮地住民は、わが町こそ妙見先祀の地であるという誇りを持っている。その確信的プライドのよってきたるところについて『秩父神社と宮地』の著者、故斎藤安之助氏は地名（宮地、宮地の中の祭戸、神門、隣接地の宮崎）や広見寺に残る妙見堂をあげて、坂東八平氏の祖・平良文が

はじめて秩父に妙見を勧請し祭祀した土地が宮地であり、その場所は「広見寺地域」であるとしている。

下宮地の北端部に位置する曹洞宗大林山広見寺の参道入口右手に妙見堂がある。この堂に関するエピソードが「広見寺記」（一七四七年）に見える。

開山天光良産禪師、明徳二年（一三九一）以前、この地に来たり、当地の勝景を愛して庵を結ぶ。前面に広き池あり、蒼龍潛む。某日、風雨激しく雷鳴轟くなかより現れ出、角を振り尾を靡かせて禪師を脅かす。禪師少しも驚かず、法要を説き、授戒して業苦を脱すべしと論す。蒼龍逡巡して退く。数日後、青衣の若者來訪して曰く「私は池中の主なり、禪師の慈誨により解脱せり、よってこの地を禪師に譲り、法寶を加護すべし。」言ふや雲に乗り霧に包まれて荒川へ去る。毎年六月、荒川において秩父妙見宮神職が祭祀し、大菩薩靈を遷した神輿を水中で洗うのは、このような理由からである。（意訳）



「寺記」は明言を避けていたが、広見寺は地主神（蒼龍＝妙見）公認の聖なる寺院であると主張しているかのようである。九四〇年、一説には将門の乱を制したとされる平良文によって宮地に勧請された妙見大菩薩は、一三二〇年頃秩父神社に合祀された。その後の信仰的空白状態を埋めるべく妙見の故地に禅宗寺院が拠点を獲得した事情が窺える。

宮地妙見の実在性を検証しうる史料は現在まで発見されていない。にもかかわらず妙見先祀の主張はコンセンサスを得ている。七つ井戸は、あるいは秩父妙見成立の時間軸に対する空間・移動軸の存在を伝えるものか。

「ははその杜コンサート」を終えて

秩父神社氏子青年会副会長
ははその杜コンサート実行委

今井祥介

本年四月竣工となりました、崇敬会館御大典奉祝事業の関連として、また平成殿室内舞台の柿落しとして、去る五月二十五日に第一回「ははその杜コンサート」が開催されました。

柿落としてお願いしたのは、尺八の大
家、山本邦山先生とジャズピアニスト佐
藤允彦先生のお二人。尺八とピアノとい
う一見異質の楽器から奏でられる音楽はそ
れとは違つてとても楽しめ熱のこもった演



演奏者紹介

山本邦山氏

昭和十二年滋賀県大津市生まれ。初代山本邦山・中西蝶山に師事、京都外国语大学卒業後、正統音楽院楽理科を卒業。国内外での公演も多く、レコード芸術祭優秀賞ほか多数受賞。テレビ・映画音楽界においても活躍され、ジャズ活動も開始される。現在都山流尺八楽会理事、現代邦樂作曲家連盟事務局長、東京芸術大学客



出演者サイン入り
パンフレット

奏に皆満足戴いたのではないかと思いま
す。また、最後に演奏された秩父音頭は、
樂譜もなくほとんど即興に近い状態で演奏
されたのには一同大変びっくりしました。
室内演奏会の難しさ等いろいろあります
が、観月コンサートと一味違う平成殿の
活用、「マチづくり」の拠点として文化の
向上を測る為の一助となれば幸いです。
最後にこの企画を立てて頂いた田辺先
生、雨の中前日当日と準備に奔走してく
ださった氏子青年会のメンバー、ご支援ご
協力を賜りました皆様方に改めて感謝を
申し上げまして報告とさせて戴きます。

員教授他多方面に活躍
佐藤允彦氏

(ジャズピアニスト、作・編曲家)
昭和十六年東京生まれ。慶應義塾大学卒業後。米国バークリー音楽院に留学、作・編曲を学ぶ。帰國後スイング・ジャーナル誌「日本ジャズ賞」受賞。その後も二度の芸術祭優秀賞を受賞。ピアニストとしての活動も国内外に留まらず、世界各国のジャズフェスティバルへ参加し、多岐にわたる活躍を見せる。アレンジャーとしても多数アーティストのレコード・デイリング・編曲を担当。アーティストに加え音楽監督も担当、各界より多大な評価を受け、ここ数年はプロデューサーとしても始動するなどその活躍はますます多面化している。

氏子青年会活動報告	
自	平成九年四月
至	平成九年十一月
四月	平成殿竣工祝賀会助勤
五月	ははその杜コンサート
六月	献血会
七月	神樂勉強会
八月	夏祭り勉強会
九月	境内清掃奉仕
十月	会員大会(バーベキュー大会)
十一月	交通安全教室 ファミリー登山
十二月	(霧島ヶ峰登山と三峰神社参拝 グラウンドゴルフ大会 浅草方面探訪の会 勉強会「夜祭り雑話」 境内清掃奉仕)

■平成殿展示ホール企画

■平成殿展示ホール企画

氏子崇敬者皆様方の多大なる御協力によりまして、この春新崇敬会館「平成殿」

並びに新齋館が完成致しました。

平成殿一階の「展示ホール」

二二其、華兒事業完遂之紀念（詩詞展示）

THE BAPTIST

卷之三

九月 記事

きわめしされた下郷笠鉢のハネル写真展

も行なわれるなど、数多くの参拝の方々

二〇九

今後、兼ては確実な絵画のため

卷之三

一〇二

卷之三

秩父神社御大典奉祝事業

奉賛者御芳名(10)

自平成九年四月一日 至平成九年十一月十五日現在
(敬称略・順不同、但し金一万円以上奉納者)

■神社拝奉賛金

金百五十万円

埼玉県信用組合

金五十万円

秩父木材協同組合

金二十五万円

金四万円

小崎 ミネ

金三万円

清野 努

金二万円

松本 德三

松本 キヌ

金十万円

柴崎セツ子

伊古田 俊

枝窪 邦康

萩原 コウ

青木 博

◆什器備品奉納者

寝具10組寄贈

マスダ(株)

◆職員結婚報告

権宜 甲田 豊治

去る平成八年四月十六日、國學院大學教授
三橋健先生夫妻の御媒酌により、狹山市新狹山
に住む松井彦士の長女千栄と大神様の大前にお
いて結婚の報告を致しました。

明るい家庭を築いて行きたいと思ひますので、
これからも御指導・御鞭撻のほど宜しくお願ひ
致します。

◆浅見武史禰宜
神職身分二級上昇進のこと

去る平成八年四月十六日、國學院大學教授
三橋健先生夫妻の御媒酌により、狹山市新狹山
に住む松井彦士の長女千栄と大神様の大前にお
いて結婚の報告を致しました。

明るい家庭を築いて行きたいと思ひますので、
これからも御指導・御鞭撻のほど宜しくお願ひ
致します。

梶だより



表紙絵並びに歌について

第9号表紙絵

今回の表紙絵は、秩父織物組合に勤務する傍ら、郷土秩父の風景とくに「お祭り」風景の作品を数多く描き、昭和51年に亡くなられた市内在住の画家、故江原義夫氏の水彩画作品「つなぎの龍」を掲載させていただきました。

社報第9号でも同氏作品の切り絵を掲載したところ大変ご好評いただき、この度の水彩画では、また違った味わいをお楽しみいただけるものと思います。

尚、今回の表紙絵の「つなぎの龍」は秩父市番場町にお住まいの熊崎恒己氏所有のものを特別にお貸しいただき、掲載させていただきました。

北斗星妙見様と祀り来て

この度の表紙の歌、そして二頁の長歌・反歌は、秩父市上町在住の柿堀欣

一郎先生の歌集「冬祭」から掲載させていただきました。

また、先生からは「妙見様」についての思い出も語っていました。

妙見様の借地

今から七十年ほど昔、大正の末昭和の始め頃、大人達の話の中に妙見様といふ言葉が時々出ました。

維新政府の神仏分离令で妙見宮から秩父神社に変わり、妙見大菩薩が天御中主神として祀られることになつても、長い間親しが言ひ方はなかなか消えませんでした。

その頃、故老から聞いた伝説ですが、「妙見様が柞の森に来られて、神様に土地を三尺貸して下さい」と頼んで借りることになったが、神様は面積をお考えにならず、深さ三尺としてお貸しになった。そのため妙見様の森の木の根は、三尺以上深くは入らない。倒れた木の根を見ればわかる」という話も聞きました。

妙見大菩薩は、北極星の神格化とも北斗七星の神格化とも言われますが七つ井戸の伝承から秩父妙見宮は北斗七星と考えられますので、それに因んで書き添えたいことがあります。

私事で恐縮ですが、私の生家は秩父大宮郷の頃から五代続いている商家ですが、ずっと使って来た店としてのマークが、井桁なので(△)何か妙見様とのゆかりに思われて懐かしいことです。



開設奉告祭の模様





「子宝・子育ての虎」絵馬

—左 甚五郎 作—

第二回目の「ははそスケッチ」は、上境内神札授与所隣にある「柞の木」をお届けします。

「ははそ」とは、一般的にコナラ・クヌギ・オオナラなどの総称を言いますが、ここで紹介する「柞の木」は、樹皮は栗の若木の肌に似ており、葉は8~25cm長楨円形披針形で、ふちは針状の鋸歯がありブナ科の葉によく似ています。また、秋には、可愛らしい赤い実をつけ、冬支度でもするかのように徐々に白いふ毛状のものが現れます。

ナラやクヌギのように、実がドングリ状のものではないことから、秩父農林振興センターの職員の方に尋ねたところアワブキと判明。では、なぜ柞の木なのか。同じアワブキ属に「深山柞」という種類があることから、そう呼ばれてきたものと思われます。一度じっくりと、ご覧なってください。

ははそスケッチ

当社を御造営した徳川家康公は、寅の年、寅の日、寅の刻生まれと言われ、虎（寅）にまつわる伝承も多く、名工左甚五

當社は、繁栄した狩野派の影響がみられ、「群虎ニ壱豹ヲ添エル」即ち「匹以上の虎を描く場合一匹豹柄を添えなさい」という法により、描かれております。また、日本にはトラが生息していなかつたため、縦縞柄を雄、豹柄を雌としていたとも言われております。

たわむれる親虎の彫刻が、左甚五郎作と伝わる「子宝・子育ての虎」であります。彫刻の彩色は、室町から江戸時代を通じて繁栄した狩野派の影響がみられ、「群虎ニ壱豹ヲ添エル」即ち「匹以上の虎を描く場合一匹豹柄を添えなさい」という法により、描かれております。また、日本にはトラが生息していなかつたため、縦縞柄を雄、豹柄を雌としていたとも言われております。

秩父神社 戊寅歳絵馬

郎が家康公の威儀と御祭神を守護する神使として彫刻に施したものとのおもわれます。

平成十年戊寅（つちのえとら）歳も、氏子崇敬者をはじめ皆様方におかれましては、麗しき年となり子孫育成、家内安全、開運厄除をお祈り申し上げ、この絵馬を授与するところであります。

■ 平成御大典奉祝事業新崇敬会館及び斎館が完成し、また新たな気持ちで、この年の夜祭りを迎へ、ここに社報「柞乃杜」第十六号をお届けします。



新人紹介

巫女見習

浅見麻衣子(18)

昭和54年2月10日生

秩父郡横瀬町出身
秩父東高校卒業後
奉職

趣味 読書・音楽鑑賞

この四月より巫女見習

として奉職させていただ

くことになりました。

私は神社の歴史、行

儀作法等々、殆ど知ら

ずいましたが、少しづ

つ勉強を重ねていくうち

に、その歴史の深さに驚

くばかりです。

今後も、先輩方の親切な御指導のもと皆様に気持良く参拝していただける様、初心を忘れず日々努力をしてゆきたい

■ 私たちが、住みよい豊かな暮らしを実現するため、犠牲は常に自然界へとむけられます。ですが、「すべては自分に返ってくる。」この意識を現代の私たちは再認識し、「異常も日々続けば正常になる。」といふやうかな生活意識の慣習を改める必要性があると考へます。

■ 「水」は生きるもの全てにとって「いのち」そのものなのです。

編集後記

平成九年（丸七）十一月三日
編集発行 秩父神社社務所
〒360-0044 埼玉県秩父市番場町一一
TEL (049) 231-0262
FAX (049) 241-1596
印刷所 有限会社 拡文社 印刷所
〒360-0044 秩父市東町二七一八